

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2375700826		
法人名	医療法人 聖会		
事業所名	グループホーム 若宮		
所在地	愛知県知多郡武豊町字若宮134番地		
自己評価作成日	平成26年12月2日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2375700826-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成26年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関の施錠はせず、どなたでも気軽に尋ねて頂けるよう努めている。小学生が下校時にトイレを借りに来てくれることもあり利用者様も和まれている。母体が病院で月2回の訪問診療と週1回の訪問看護、常に相談できる環境になっており、状態に応じて職員が母体病院への受診支援も行っている。また、ホームでは看取りを行わないことになっているが、最後は病院で看取って貰えることになっている。利用者様がゆったりと過ごせるよう暖かで家庭的な雰囲気大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者様は人生の先輩！」を、念頭に置いたケアを心がけている。今年に入り法人内GHで職員の異動があったため、全員が初心に戻る為にも朝の申し送り時に理念を唱和して日々のケアに繋げるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入りゴミ当番や草刈りなどに参加することで事業所が地域の一員として交流している。また昨年より町内の防災訓練が活発になり利用者様も一緒に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	草刈りなどで地域の方と一緒にいる時は積極的に会話に入るようにしている。また役場が主催している3A運動(挨拶・安全・安心)に登録し小学生がトイレや雨宿りで気軽に立ち寄ってくれる環境になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	福祉課・包括支援センター・区長・民生委員・利用者様・ご家族に参加して頂き行事の報告やその時の課題を挙げ意見交換している。今年はよく発言される利用者様がみえ、いつも場を和ませて下さっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や毎月開催されている町主催のケアマネの集いでの交流で、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はせず、外に出ようとされる方には一緒に付き添い、また利用者様が何かしようとするに職員の都合で制止したり、それが出来ないようにすることも身体拘束になると全ての職員が理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様、虐待に関しても全ての職員が「あってはならないこと！」と認識して、日々のケアに取り組んでいる。万が一、虐待と思われることがあれば全ての職員で話し合い防止に努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入所されている利用者様が、今年に入り成年後見制度を利用されることになり、そこに至るまでの経過の中で弁護士と話し合えるなど制度について学ぶ機会が持てた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、重要事項説明書に基づき納得して頂けるまで説明し、心配なことや分からないことがないかを尋ね不安が残らないよう努めている。その後も何かあれば遠慮なく尋ねて下さるようお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、面会に来られた時や電話で伺うようにしている。利用者様の声にも耳を傾け反映に努めてはいるが、一部の方からの意見しか聞くことが出来ないのが残念である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時に意見を聞くようにし、個人的にも聞ける環境作りに努めている。その意見や提案に基づき話し合う場を持ち、業務改善に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、日々の勤務状況や伝えるべき個々の思いは法人に報告している。また職員の希望等、必要に応じて法人の幹部と個別で面談出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、届く研修案内には順番に参加できるようにしているが毎月はない。新入職員には早い段階で全てを求めるのではなく時間をかけてゆっくり育成するよう言われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内 3グループホームの管理者が話し合う機会を持ち相互で向上できるよう努めている。また研修に参加し同業者と交流した際に、良い情報を得た時は自施設にも反映させるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の言葉に耳を傾け、暖かい眼差しと優しい心で接し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の思いを、しっかり汲み取り 安心してサービスを受けて頂けるよう誠意を持ったお話が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人 ご家族にとって、より良いサービスが提供出来るよう相談に応じている。介護認定されていない場合は今後の流れを説明した上で、状況に応じた機関等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護させて頂いているという気持ちを忘れず、職員が決して上に立たずご本人の思いや不安を知ること努め、共に支え合う関係になれるよう思いやりを持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時やホームからのお便り、また必要に応じて電話で日々のご様子を報告している。その都度 ご家族の要望も伺いながら一緒に支援する関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方や一緒によく遊んだという友人が訪ねてこられた際に認知症ということで関係が途切れないよう努めている。場所に関しては、現在 要望がないため出来ていないが支援させて頂きたいと思っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が気軽に話せる空間を作っている。気の合う方たちと一緒に食事をしたり制作等でレクを楽しんで頂くことで支え合える関係になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院による退居が多く、同法人の病院に入院されるので面会に行き様子を伺いやすい環境になっている。退居された後も、いつでも相談にのれるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを話せる方には、その要望に出来る限り応えるようにしている。日々利用者様本位のケアを心掛けてはいるが、思いを聞けない方がどこまで満足して頂けてるのかは分からない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時(担当ケアマネ)や利用者様との会話、ご家族からの情報を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、利用者様一人ひとりの状態に応じたケアが出来るよう、心身の状態変化を毎朝申し送ることで全ての職員が情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族やご本人の思いを聞き取り、日々状態の変化等を、情報交換しながら話し合うことで一方的な介護計画にならないよう努めている。職員全員が利用者様の担当を持ち毎月モニタリングをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録の大切さを認識しあい、充実した記録になるよう努めている。それをケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様一人ひとりのニーズに合わせ柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方たちを招き楽しんで頂いている。また、外食・買い物・喫茶店等 外出の機会も持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	同法人 病院の訪問診療を、月2回 行っている。ご本人ご家族の希望で、歯科往診を受けられたり眼科受診されている方もみえる。また緊急時は職員が付き添って病院受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、訪問看護があり利用者様の状態を伝え、必要に応じて相談し指示をもらっている。また訪問看護の日に関わらず、看護師に気軽に相談でき医師の指示も受けられる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、日常生活の様子を詳しく情報提供し入院中も情報交換に努めている。また毎月あるGHの管理者会議で利用者様の近況を院長に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化された時は、早急にご家族と話し合いより良い選択が出来るようにしている。現在、ホームではターミナルケアは行っておらず、ご家族も入院を希望され、殆どの方が同法人の病院に入院されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は行っていないが、急変時はマニュアルにそって 母体の病院に連絡し指示をもらうことになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホームでは、年2回 防災訓練を行い、地域の防災訓練にも利用者様と一緒に参加している。3日分の水・食料の備蓄があり、運営推進会議でも互いに協力できるよう話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、決して上から目線にならないよう注意し、特に言葉遣いには気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々生活の中で、ご本人の思いや希望を聞けるような声かけに努めている。また介助させて頂く際も、必ず声かけをして ご本人の思いを伺ってから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの思いやペースを大切にし意思を優先するようにしているが、居室で過ごされがちになる方もみえるので、体操・レク・散歩等に参加してもらえるような働きかけもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類、髪型に乱れがないよう気配りしている。また隔月で訪問理美容があり希望で利用して頂いている。化粧品等の買い物も希望に応じた支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月、行事の1つとして担当者が手作りおやつを計画し利用者様も楽しそうに参加されている。1年に1回はご家族を交えての外食や間にも喫茶店に行ったり、昼食は職員も同じテーブルで会話しながら食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は、毎食チェックし、お粥・刻み・ミキサー食と その方に合った形態で提供している。毎月 体重測定し増減ある時は、その都度 検討し対処している。現在1名の方が栄養補助食品を摂取されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを日課とし、ご自分で出来る方には声かけ、困難な方には必要に応じた介助をしている。また歯痛の訴えがあった時は、ご家族と相談し希望があれば歯科往診で治療して貰えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿便意のない方にも出来るだけトイレで排泄して貰えるよう、個々の排泄パターンに合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排便チェックの確認をし 水分補給や運動の働きかけをし牛乳やヨーグルト等も毎日提供している。また、その方に合った整腸剤もいろいろ試しながら処方してもらっている。現在、下剤を服用する方はみえない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	出来れば曜日や時間帯を決めない入浴支援をしたいが、現在の人員配置では難しい。週3日(火木土)午前中に入浴して頂く中での希望やタイミングに合わせた支援をし、ゆったり入って頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間は消灯時間を決めずに一人ひとりの生活習慣に合わせて休んで頂いている。日中も希望にそった休息を提供し、室温の設定も個々に合わせ その方にとって快適になるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に処方された薬表をファイルし、すぐ見られる所に置いてある。毎日 処方された薬を個々のケースにセットし内服時は誤薬をしないよう名前 日付 朝昼夕を確認し、内服確認や状態変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月1回は、手作りおやつの日を設けて一緒に作って頂いたり、掃除 洗濯を手伝って頂いたり、ボランティアの方を招いたり、外出行事も多く持つようにし、皆さんが少しでも楽しんで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「〇〇に行きたい!」という、個々の希望は殆どないが、希望があれば支援したい。地域の催し物に参加したり、初詣 季節のお花見 喫茶店等 外出の機会を持つようにしている。年に1回 ご家族を お誘いしての夕食も恒例の行事になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、3名の利用者様ご家族から お小遣いとしてお金をお預かりしている。理美容や歯科往診の支払い、また ご本人の希望に応じて買い物の支援をしている。お金を所持されてる方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつもかけて頂ける体制にしているが、稀に希望される方が1名みえるだけで、こちらが働きかけても望まれない。届いた手紙には返事を書いて貰うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアーは日当たりが良く、利用者様は職員と一緒にゆったりと過ごされている。壁面には、毎月 担当職員が季節を取り入れた飾りつけをし利用者様にも参加して頂き楽しい時間になるよう努めている。利用者様の写真も隔月で貼り換えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の希望や身体状況に合わせた居場所作りを心掛けている。決まった ご自分の席が一番 落ち着かれるよう新聞を読まれたり、お話や制作、洗濯物をたたみなどされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた椅子やテーブル、テレビ 筆筒など居室に配置出来る範囲で自由に持って来て頂き、利用者様が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は フルフラット・引き戸・手すりがあり、物の配置等では転倒防止に努めている。また利用者様の自立度の変化に応じて居室の変更をお願いをすることもある。		